

＜京都大学大学院医学研究科 発達障害支援医学講座 特別共同企画＞

自閉スペクトラム症の臨床（総合）

－発達リハビリテーション、医療的介入から司法事例への対応まで－

*当財団(講座)は「臨床心理士」資格取得者の研修機会として、(公財)日本臨床心理士資格認定協会より「短期研修機会(ワークショップ)」の承認を受けております。＜承認期間:平成29年7月1日～平成34年6月30日 承認番号:W29111＞

期 日：2018年 2月10日(土)・11日(日)

受講対象：教育・医療（心療内科・小児科など精神科近接領域）・心理・産業保健・就労支援・司法・福祉等の機関・現場で精神保健にかかわる方々、研究生・大学院生など興味のある方

定 員：120名（定員になり次第締切りますのでホームページなどをご確認ください）

受講料：10,000円（税込み） ※昼食は各自おとりください

主 催：公益財団法人 明治安田こころの健康財団 TEL 03-3986-7021

共 催：京都大学大学院医学研究科 発達障害支援医学講座

会 場：大阪社会福祉指導センター 5階多目的ホール ※詳細地図は受講証に添付いたします

大阪市中央区中寺1丁目1-54

（市営地下鉄谷町線・長堀鶴見緑地線共に「谷町6丁目」下車④番出口から徒歩5分）

講師陣ご紹介

*** 企画 // 十一 元三 先生 //

京都大学大学院医学研究科 教授（人間健康科学系）、神経発達症研究推進機構 ***

加藤 寿宏 先生：京都大学大学院医学研究科 准教授（作業療法士、作業療法学博士）

義村 さや香 先生：京都大学大学院医学研究科 発達障害支援医学講座（児童精神科医、医学博士）

天野 玉記 先生：神経発達症研究推進機構 理事（臨床心理士、EMDRセラピスト、人間健康科学博士）

熊上 崇 先生：立教大学（特別支援教育士スーパーバイザー、リハビリテーション科学博士）

本講座では自閉スペクトラム症を主な対象として、年度により臨床的テーマと認知科学的テーマを交互に取り上げてまいりました。昨年度は「記憶」をテーマに自閉スペクトラム症の認知行動特性に焦点を当てた内容としましたが、今年度は臨床実践に直結する内容で企画致しました。

近年、自閉スペクトラム症をもつ人に対するライフステージを通じた臨床的介入の必要性が広く認識されつつあります。しかし、どのライフステージにどのような視点や方法によるアプローチが適切であるのかは分かりづらく、現場ではしばしば混乱が生じています。そこで、今回は幼児・学童期の作業療法的介入、児童・青年期のメンタルヘルスに焦点を当てた介入、併存症に対する医療的介入、トラウマへの介入、司法的問題（社会的問題行動）への介入という5つの課題を取り上げ、これらの領域の第一線でご活躍のエキスパートをお招きしました。毎年、好評を頂いている講師との質疑・討議の時間を第1日・2日の両日とも設けましたので、講義と合わせ日ごろお持ちの疑問を解決する機会となれば幸いです。

＜京都大学大学院医学研究科 人間健康科学系 教授 十一 元三＞

【プログラム】

日程	時間	テーマ	講師(敬称略)
2月10日(土)	12:30～12:40	(事務局事務連絡)	
	12:40～13:40	発達リハビリテーションの対象と狙い:何に注目し、どう介入するか	加藤 寿宏
	13:50～14:50	メンタルヘルスに重点を置いた介入:児童・青年期を中心に	義村 さや香
	15:00～16:00	併存症をもつケースへの介入:ASDがもたらす影響と留意点	十一 元三
	16:10～17:00	＜ 第1日目： 質 疑 ＞	(第1日目講師)
2月11日(日)	10:00～11:00	トラウマによる病態への対応:ASD特性にどう配慮するか	天野 玉記
	11:00～12:00	ASDをもつ司法事例への介入:アセスメントの活かし方	熊上 崇
	13:10～13:40	臨床的問題の性質と介入の様態:第1・2日の整理	十一 元三
	14:00～15:00	＜ 第2日目： 質疑と総合討議 ＞	義村・天野・熊上・十一

※ 時間割・テーマ等については、多少異なる場合があることをお含みください。